

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	英文法 I	
科目基礎情報							
科目番号	0011			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	機械工学科			対象学年	1		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	New Angle English Grammar 27 Textbook、New Angle 総合英語						
担当教員	グレイディ クレア,山岡 賢三						
到達目標							
本授業は、以下の内容を目的としています。 ①中学校レベルの英文法の盤石化 ②学習した文法事項の理解と実践的運用 ③文法を学習する際に必要な語彙・構文の理解・暗記及び実践的運用 上記について、より具体的には、使用するテキストを用いて、定期試験毎に以下の項目ができるようになることを到達目標としています。 A：中学校で学習した英文法をミスなく使えるようになる B：学習した文法事項を使った英文法の問題が解けるようになる C：学習した英文法について、単元別だけでなく、単元を横断した複合的な問題が解けるようになる D：学習した英文法を使って、平易な英文が書けるようになる E：学習した英文法を組み合わせ、少し複雑な英文が書けるようになる							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	基礎的な文法事項や構文を理解し、正しく運用することができる。			基礎的な文法事項や構文を理解し、おおむね運用することができる。		基礎的な文法事項や構文を理解し、正しく運用することができない。	
評価項目2	身近な事柄について、既習の文法を用いて、正しく表現することができる。			身近な事柄について、既習の文法を用いて、おおむね表現することができる。		身近な事柄について、既習の文法を用いて、正しく表現することができない。	
評価項目3	英語表現に必要な語彙の意味を理解し、英作文で正しく用いることができる。			英語表現に必要な語彙の意味を理解し、英作文でおおむね用いることができる。		英語表現に必要な語彙の意味を理解し、英作文で正しく用いることができない。	
学科の到達目標項目との関係							
準学士課程（本科1～5年）学習教育目標（3）							
教育方法等							
概要	英語力養成の基盤となる「文法」に特化した授業を展開することで、英文法の習得と実践的な運用を目指します。一般的に、文法を苦手とする英語学習者は多いと言われていますが、文法は外国語学習の最短ルートを示してくれる導き手であり、文法学習なくして、外国語の習得はあり得ません。しかし、本授業は文法事項の単なる説明に終始するのではなく、文法問題の演習を通じて、英文法が実践的に使えるようになることを前提としています。以上を踏まえて本授業では、平易な文法問題集を扱い、各文法事項の講義と演習を通じて、単なる理解に留まらず、学習した文法事項が実際に使えるようになることを目指すとともに、最終的には学習者の総合的な英語力の盤石化を目指します。						
授業の進め方・方法	授業では、①文法問題集、②文法の解説書（いわゆる文法書）の2冊を中心に授業を進めます。①②を使いながら、授業計画に示された文法事項を説明するとともに、①のテキストを使って問題演習を行う形で授業が展開されます。また、小テスト及び定期試験を適宜実施することで、学習の定着度を定期的に確認します。						
注意点	・関連科目：英語I ・学習指針：到達目標を達成するためにも、授業の予習復習は必ず行い、積極的に英語学習に臨むこと。 ○事前学習 ・指定された予習範囲にかかる文法事項について、文法書を予め読んでおく ・指定された予習範囲の問題を予め解いておく ・指定された予習範囲について、分からない文法事項・語彙・構文を調べておく ○事後学習 ・授業での解説を踏まえながら、予習した問題の正誤を確認し、弱点となる分野を特定する ・弱点となる分野について、文法書及び問題集を通じて再度理解を深める ・未習の語彙・構文を改めて覚える ・小テストや定期試験が実施される場合は、その準備をしておく ・その他：欠席による小テストの未受験や課題未提出については、公欠またはそれに準ずる欠席に限り対応する。						
学修単位の履修上の注意							
本授業は学習単位科目に該当しない。							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	オリエンテーションとUnit 0～1（英語の基本、文の種類と文型（1））		授業の概要と進め方、成績評価の方法などについて説明する。		
		2週	Unit 2～3（文の種類と文型（2）（3））		指定された文法事項について、理解及び運用ができるようになる。		
		3週	Unit 4～5（基本時制（1）（2））		指定された文法事項について、理解及び運用ができるようになる。		
		4週	Unit 6～7（完了形（1）（2））		指定された文法事項について、理解及び運用ができるようになる。		
		5週	まとめのテスト1		指定された文法事項について、理解及び運用ができるようになる。		
		6週	Unit 8～9（助動詞（1）（2））		指定された文法事項について、理解及び運用ができるようになる。		
		7週	Unit 9～10（助動詞（2）（3））		指定された文法事項について、理解及び運用ができるようになる。		

		8週	定期試験（前期中間試験）	これまでに学習した文法事項を用いて、試験に正しく解答できるようにする。
	2ndQ	9週	Unit 11 ～ 12（受動態（１）（２））	指定された文法事項について、理解及び運用ができるようになる。
		10週	まとめのテスト２	指定された文法事項について、理解及び運用ができるようになる。
		11週	Unit 13 ～ 14（不定詞（１）（２））	指定された文法事項について、理解及び運用ができるようになる。
		12週	Unit 14 ～ 15（不定詞（２）（３））	指定された文法事項について、理解及び運用ができるようになる。
		13週	Unit 15 ～ 16（不定詞（３）、動名詞（１））	指定された文法事項について、理解及び運用ができるようになる。
		14週	Unit 16 ～ 17（動名詞（１）（２））	指定された文法事項について、理解及び運用ができるようになる。
		15週	定期試験（前期末試験）	これまでに学習した文法事項を用いて、試験に正しく解答できるようにする。
		16週	前期の振り返り	これまでの学習内容を復習し、弱点を見つけるとともに、知識の盤石化ができるようになる。
後期	3rdQ	1週	Unit 18（分詞（１））	指定された文法事項について、理解及び運用ができるようになる。
		2週	Unit 19（分詞（２））	指定された文法事項について、理解及び運用ができるようになる。
		3週	まとめのテスト３	指定された文法事項について、理解及び運用ができるようになる。
		4週	Unit 20 ～ 21（関係詞（１）（２））	指定された文法事項について、理解及び運用ができるようになる。
		5週	Unit 21（関係詞（２））	指定された文法事項について、理解及び運用ができるようになる。
		6週	Unit 22（関係詞（３））	指定された文法事項について、理解及び運用ができるようになる。
		7週	Unit 23（比較（１））	指定された文法事項について、理解及び運用ができるようになる。
		8週	定期試験（後期中間試験）	これまでに学習した文法事項を用いて、試験に正しく解答できるようにする。
	4thQ	9週	Unit 24（比較（２））	指定された文法事項について、理解及び運用ができるようになる。
		10週	まとめのテスト４	指定された文法事項について、理解及び運用ができるようになる。
		11週	Unit 25（仮定法（１））	指定された文法事項について、理解及び運用ができるようになる。
		12週	Unit 26（仮定法（２））	指定された文法事項について、理解及び運用ができるようになる。
		13週	Unit 27（話法）	指定された文法事項について、理解及び運用ができるようになる。
		14週	まとめのテスト５	指定された文法事項について、理解及び運用ができるようになる。
		15週	定期試験（学年末試験）	これまでに学習した文法事項を用いて、試験に正しく解答できるようにする。
		16週	授業の振り返り	これまでの学習内容を復習し、弱点を見つけるとともに、知識の盤石化ができるようになる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	3	
				明瞭に聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	3	
				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	3	
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	3	
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	3	
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	3	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	
	実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	3				

			自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。	3	
			英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などができる。	3	
			英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	3	
			母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	3	
		英語運用能力向上のための学習	関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。	3	
			関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	3	
			関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。	3	
			英文資料を、自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながるよう、英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。	3	
			実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	3	
評価割合					
		定期試験	小テスト	提出物の完成度	合計
総合評価割合		60	20	20	100
基礎的能力		60	20	20	100